

Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care

NASHIM

ヒバクシャ医療国際協力通信



大韓赤十字社 張 錫準事務総長を表敬訪問

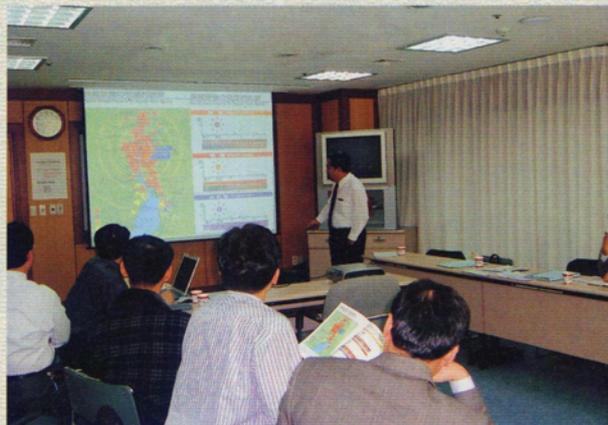
Vol. 16
2005
SPRING

- Report 韓国の医療機関等を訪問
- From Korea 被爆者医療研修を終えて…
- Report ユリー・コステンコ駐日ウクライナ大使が長崎を訪問
- Report チェルノブイリ関係国から管理職員来崎
- Report JICA研修員受け入れ
- Information 永井隆平和記念・長崎賞候補者を募集
アニメーション映画「アンゼラスの鐘」の製作を支援しよう

韓国の医療機関等を訪問

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）は、平成7年度から韓国の医師や看護師等を長崎に招聘し、被爆者医療の研修を実施していますが、今後の参考とするため韓国の医療関係者との情報交換、赤十字病院等の実情を把握するため去る11月と2月に韓国を訪問しました。

まず11月に訪問した翰林大学聖心病院（京畿道安養市）で「日韓被爆者医療セミナー」を開催しました。長崎側から朝長万左男 長崎大学大学院原爆後障害医療研究施設教授が「原爆後障害研究の現状」と題して講演するとともに、古河隆二 日赤長崎原爆病院消化器科部長が「長崎原爆病院における癌患者の状況」を説明しました。韓国側からは在韓被爆者の事情に詳しい（社）人道主義実践医師協議会の会員3人が研究調査の成果を発表しました。韓国人原爆被爆者の健康実態現況について周 永洙翰林大学社会医学教室助教授、金 鎮國 大邱赤十字病院神経科長、全 炯俊翰林大学社会医学教室助教授が発表を行いました。韓国側は被爆1世の健康診断や設問調査の結果、被爆2世に対する設問調査の結果などを発表しましたが、日本側との意見交換で被爆1世の放射線量の把握の重要性を認識したいへん有益だったと感想を述べました。また、日本側から朝長教授は「日韓



翰林大学聖心病院で日韓被爆者医療セミナーを開催

の研究者間のセミナーで今回初めて被爆2世問題を扱ったが、韓国の2世たちの健康面や生活面に対する問題意識を共有できたことは大きな成果だった。」と感想を述べました。

仁川赤十字病院は結核療養病院（1940年創立）と京畿赤十字病院（1956年創立）が1993年に統合されてできた病院で、2002年に新館病棟が建設されています。ナシムの招聘で来崎したことのある梁 宙鉉院長と宋 基成管理部長が病院概要を説明した後、病院内を視察しました。

なお、訪問団一行は仁川赤十字病院の敷地内に建設されているサハリン同胞福祉会館の入所者を慰問しました。戦前、日本領だったサハリンには、当時、日本国民だった韓国の人々も労働者として多数移住していました。1999年に日本政府の支



仁川赤十字病院を視察



仁川サハリン同胞福祉会館に入所者を慰問

援で永住帰国者のために福祉会館が建設され、現在94名が入所しています（平均年齢83歳）。流暢な日本語で親しげに訪問団一行に話しかける人もいました。

また、2月にはナシムの井石哲哉会長（長崎県医師会長）が森秀樹 日赤長崎原爆病院副院長等とともに韓国を訪問しました。まず韓国人被爆者に対して福祉事業を行っている大韓赤十字社を訪問し、1月下旬に就任されたばかりの張 錫準事務総長（事務総長は日本赤十字社社長に該当）や裴 煥洙特殊福祉事業所長と懇談しました。張 錫準事務総長は、「ナシムはたいへんすばらしいことを行っており、長崎で研修を受けた人たちは韓国に帰ってから実際に研修の成果を生かしている。大韓赤十字社としても韓国の被爆者たちを積極的に支援していきたいと考えている。」と述べられました。

嶺南大学医学部附属病院は韓国に20ヶ所ある原爆被害者診療協定病院の一つで、昨年10月、同大学の金世東医学部長がナシム研修で来崎したのがきっかけで今回視察したものです。同病院は病床数が914床で、PETが2台使用されているなど、先進医療を行う大邱市内でもトップ水準の病院です。韓国人被爆者が多数居住している陝川から近いこともあり、被爆者がよく診療に訪れる病院の一つです。尚州赤十字病院がある尚州市は慶尚北道の北西部にある都市で、人口は11万です。尚州赤十字病院は尚州市の代表的な病院で、病床数は265床、12診療科があります。金 元基院長と金 容吉管理部長の病院概要説明後、金 容吉管



嶺南大学医学部附属病院を視察

理部長が病院内を案内してくださいました。同病院は各種先進的な事業を行っており、地元新聞でたびたび紹介されています。たとえば、労使和合による病院運営、障害者に駐車場無料開放、一人暮らしの老人に対する無料訪問看護の実施、夏休みや冬休み期間、家庭が貧しくて昼食がとれない児童に対する食事の提供などです。また、老人の生きがい対策として病院内に長寿大学を開設し、余暇活用、自己発展、健康増進のための各種講座などを行っています。

大韓赤十字病院は日本の病院と比べて職員数が少ないこと、ホームレスや外国人労働者に対する無料診療等により経営が厳しい事情にあることなどがわかりました。しかし赤十字の基本原則である「人道」、「奉仕」を身をもって実践している医師や看護師、その他の職員たちにはどこか使命感にあふれるものを感じるとともに、地域住民たちからの信頼がかなり厚いという印象を受けました。



尚州赤十字病院を視察

韓国内での訪問先

11月22日～23日

大韓赤十字社本社
翰林大学聖心病院
仁川赤十字病院
仁川サハリン同胞福祉会館

2月14日～16日

大韓赤十字社本社
嶺南大学医学部附属病院
大邱赤十字病院
大邱医療院（大邱市立病院）
大邱市医師会
尚州赤十字病院

被爆者医療研修を 終えて…

国立慶尚大学病院
放射線腫瘍科教授
蔡 奎 英



日赤長崎原爆病院で病院概要を開く研修者たち

長崎での7日間の研修のお陰で、新春はますます暖かさを増した。

多くの研修機関や原爆関連施設を関係者の皆様の暖かいご配慮により、とても気持ちよく訪問することができ、好奇心の充足を楽しむことができた。

しかし、この春、私が享受している暖かさが被爆者の受けた苦痛を土台にして与えられたということを見ると、いつも複雑な心境になるのだった。

決してあってはならなかったその残酷な苦しみを人類を代表して担うことによって、世に向かって無言のメッセージを与えた被爆者の皆様に、一片の哀悼の念を抱くことさえ、なぜか自信がなかった。

ただ、国立原爆死没者追悼平和祈念館で日本の地に刻み込まれた深い傷の治癒をお祈りするメッセージを残すことで、少しは心が慰められた。

長崎を発った日は風がとても強かった。

原子爆弾が炸裂した現場はそんなに抽象的なものではなかった、強い爆風ですべてのものが徹底的に破壊されてしまったというメッセージが、私に必要だったのであろうか。

今、韓国人の私に残っているものがもうひとつある。長崎のカステラのその甘ったるい味……



恵の丘長崎原爆ホームを訪問



長崎大学原爆後障害医療研究施設で研修

2004年度・後期 韓国人医師等受入研修者名簿

研修期間	所 属	職 名	氏 名
10月24日～10月30日 (7日間)	ワレス記念浸礼病院 病院長	病院長 脳神経外科	イ・ドンニョル 李 東烈
	嶺南大学医学部	医学部長 整形外科	キム・セドン 金 世東
10月24日～10月28日 (5日間)	大韓赤十字社 陝川原爆被害者福祉会館	社会福祉士	ソ・ジョンヒ 徐 貞姫
	大韓赤十字社 特殊福祉事業所	在韓被爆者担当	パク・ソンヒ 朴 省喜
1月16日～1月22日 (7日間)	大韓赤十字社 大邱赤十字病院	神経科長	キム・ジングック 金 鎮國
	翰林大学医学部 漢江聖心病院	助教授 産業医学科	チョン・ヒョンジュン 全 炯俊
1月16日～1月20日 (5日間)	大韓赤十字社 ソウル赤十字病院	管理部長	ユン・ヘースック 尹 惠淑
	大韓赤十字社 陝川原爆被害者福祉会館	館長	イ・ウドン 李 宇東
3月6日～3月12日 (7日間)	国立慶尚大学病院	教授 放射線腫瘍科	チェ・ギョジョン 蔡 奎英
	大韓赤十字社 尚州赤十字病院	外科科長	ソン・ジョンホ 宋 俊昊
3月6日～3月10日 (5日間)	大韓赤十字社 尚州赤十字病院	広報係長	ソ・インボム 徐 寅範

ユリー・コステンコ 駐日ウクライナ大使が長崎を訪問

去る11月18日、ユリー・コステンコ駐日ウクライナ大使が長崎県医師会を訪問して、井石哲哉会長（ナシム会長）や長崎大学医学部関係者と会談を行いました。

ウクライナにはチェルノブイリ原子力発電所事故の被害者が多く、ナシムはこれまでにウクライナから16名の医師や研究者を被ばく者医療の研修に招いています。また同国には発電所事故により小児甲状腺癌患者が多く、このためロシア語による甲状腺関係の医学教科書を出版してウクライナの病院や研究所で働く医師たちに無償で配ったりしています。また長崎からウクライナへ専門家を派遣し、被ばく医療技術の向上に努めています。

コステンコ大使はこうしたナシムのこれまでの支援に対し改めて感謝の意を伝えるとともに、今後の協力のあり方について協議するため長崎を訪問されたものです。

大使は、「被爆地・長崎から若い医師もウクライナへ行って、ウクライナの医師にいろいろ教えてほしい。チェルノブイリ原発事故から20周年となる

2006年には首都キエフで政治や科学などの分野で様々な会議を予定している。日本やウクライナだけでなく他の国々も参加する予定である。

2006年にはウクライナだけが20周年事業を行うのではなく、日本でも開催してほしい。

被爆60周年となる2005年には平和祈念式典にぜひ私を招待してほしいと本日長崎市に申し入れたが、承諾をしてもらったところである。2006年の20周年祈念行事には井石会長もぜひ参加してほしい。」と述べられました。

コステンコ大使は長崎大学を訪問して齋藤寛学長に同大学の医学部が行ってきたこれまでの支援に感謝されるとともに、県庁や長崎市役所も訪れ、6月に同国のグリシチェンコ外務大臣が金子知事や伊藤市長に要請したウクライナ訪問について、重ねて要請されました。

また、大使はかつてゴルバチョフ大統領が訪問したことのある長崎市内のロシア人墓地を訪れ、ウクライナ人の墓に献花をされました。



田中裕司 長崎県副知事を訪問



井石哲哉 長崎県医師会長（ナシム会長）を訪問

チェルノブイリ関係国から管理職員来崎

ナシムは毎年夏にチェルノブイリ関係国及びカザフスタンから医療従事者を招聘し被ばく者医療の研修を実施しているところですが、この研修が円滑に実施できるよう、研修に職員を派遣している大学や病院、研究所の管理職員を長崎に招聘し、長崎原爆の実相を把握していただくとともにナシムの事業に理解を深めてもらうこととしています。管理職員研修は平成14年度から隔年で実施しており、2回目となる今年度は10月3日から10月11日までの期間で実施しました。



齋藤 寛 長崎大学学長(ナシム副会長)を訪問

長崎では最初に原爆資料館を見学しましたが、写真など多くの展示品を見て原子爆弾被害のすさまじさに強い衝撃を受けられたようでした。また、長崎大学原爆後障害医療研究施設、放射線影響研究所、日赤長崎原爆病院、長崎県福祉保健部を訪問し職員から業務説明を受けたり、原爆被爆者特別養護ホーム「かめだけ」を視察しました。

この他、井石哲哉長崎県医師会長(ナシム会長)や齋藤寛長崎大学学長(ナシム副会長)を訪問し、ナシム事業に対してお礼を述べるとともに、被ばく者医療の研修はたいへん役に立っており今後も継続してほしいと述べました。

招聘したのは、ロシアのオブニンスク放射線医学研究所からエフゲニー・ルシニコフ臨床形態学部長、ウクライナのジトミール州北西部診断センターからヴァレリー・ダニリュク院長、ベラルーシのゴメリ医科大学からセルゲイ・ジャバラナク学長の3人の先生方です(カザフスタンからは都合により不参加)。

一行はまず東京の財団法人 笹川記念保健協力財団を訪問して紀伊國献三理事長と会談しました。3人はいずれも財団が行っているプロジェクトに関係しており、今後の包括的なチェルノブイリ支援の観点から紀伊國理事長と意見交換を行ったものです。



平和公園を視察

チェルノブイリ・カザフスタン管理職員名簿

氏名	性別	国籍	所属・役職
Evgeny Lushnikov エフゲニー・ルシニコフ	男	ロシア	Medical Radiological Research Center of Russian Academy of Medical Sciences Head of the Clinico-Morphological Department オブニンスク放射線医学研究所 臨床形態学部長
Valeriy Danylyuk ヴァレリー・ダニリュク	男	ウクライナ	Oblast Interrayon Diagnostic Center in Korosten City Chief Physician ジトミール州北西部診断センター(コロスティン) 院長
Sergey Zhavaranak セルゲイ・ジャバラナク	男	ベラルーシ	Gomel State Medical University Rector ゴメリ医科大学 学長

JICA研修員受け入れ

カザフスタン共和国の北東部にあるセミパラチンスクという地域は旧ソ連時代の1949年8月から89年10月までの40年間にわたって、地上及び地下を含め約500回もの核実験が繰り返されてきたところです。この実験場周辺の人々は放射性降下物で汚染した空気や水、食物などにより健康に深刻な影響を受けており、この地域では乳癌や甲状腺癌の発病が他の地域に比べて多くなっています。ソ連崩壊後の経済の低迷や社会保障制度の混乱もあって、この地域の保健・医療体制は極めて不十分な状況にあるため、カザフスタン政府や国連から要請を受けた日本政府は、平成11年9月にセミパラチンスク支援東京国際会議を開催し、その結果、唯一の被爆国である日本は広島・長崎の経験と被爆者支援の実績を生かした医療支援を行うことが決定されました。

具体的にはJICAがセミパラチンスク地域医療改善計画プロジェクトを平成12年度から開始し、無償医療機材供与や健診バスなどを利用した住民の健康診断などを行っています。長崎からも長崎大学医学部が専門家を派遣するなど積極的に協力を行っているところです。

ナシムはJICAが招聘したカザフスタンからの研修員を12年度当初から受け入れていますが、今年度は10月5日から9日まで5名を受け入れました。JICAの「保健行政」研修に参加したのは、カディロバ・エングリク国立科学医療センター副センター長、クサイノバ・アイグル東カザフスタン州保健局長、シャヤフメトバ・グルジャンセミパラチンスク看護大学総長、サガンディコバ・サガダットJICA調整員、ジュアスバエバ・ガリア看護協会会長で、長崎滞在中はナシムが招聘したチェルノブイリ関係国管理職員3名と一っしょに研修を受けました。研修員は「日本の医療技術の高さに驚いた」「日本は人権を尊重する優れた国」「日本人は几帳面で規律正しく、責任感がとても強く親切だ」などと感想を述べました。



放射線影響研究所を視察



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館を視察

JICA研修員名簿

氏名	性別	国籍	所属・役職
Kadvrova Englik カディロバ・エングリク	女	カザフスタン	国立科学医療センター 副センター長 内科医
Kusainova Algul クサイノバ・アイグル	女	カザフスタン	東カザフスタン州保健局 次長 小児科医
Shayakhmetova Gulijan シャヤフメトバ・グルジャン	女	カザフスタン	セミパラチンスク看護大学 総長 内科医
Sagandykova Sagadat サガンディコバ・サガダット	女	カザフスタン	JICA調整員 内科医 リュウマチ医
Zhuabaeva Galla ジュアスバエバ・ガリア	女	カザフスタン	セミパラチンスク保健局 看護チーフスペシャリスト 看護協会会長

永井隆平和記念・長崎賞候補者を募集

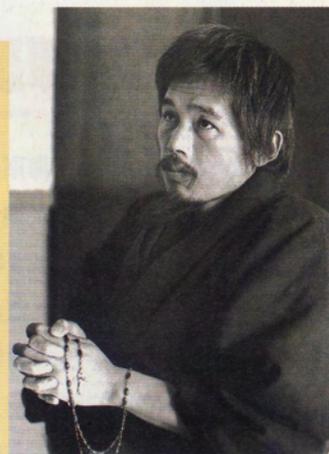
ナシムは、原子爆弾による被爆者と放射線被ばく事故等による被災者に対する治療及び調査・研究等の分野において、ヒバクシャ医療の向上・発展、ヒバクシャの福祉の向上を通じ世界平和に貢献し、将来



にわたる活躍が期待される国内外の個人または団体に、永井隆平和記念・長崎賞を被爆

50周年の平成7年度から隔年毎に贈っています。

昨年11月から候補者を募集していますが、今後、選考委員会、賞委員会を経て被爆60周年となる今年、第6回目の授賞を行う予定です。



～被爆60周年平和祈念作品～

アニメーション映画「アンゼラスの鐘」の製作を支援しよう

原爆投下直後の長崎で、自ら被爆しながら被爆者医療に尽力した医師の秋月辰一郎さんを主人公にした長編アニメ「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘～」の製作が現在進められています。秋月さんは大正5年（1916年）長崎市万才町で生まれ、京都帝国大学医学部を卒業後、昭和15年6月から昭和16年4月まで永井隆助教授が部長を勤める長崎医科大学物理的療法科（現在の放射線科）の助手として勤務されています。原爆が投下された当時は爆心地から1.4kmの浦上第一病院（現在の聖フランシスコ病院）に院長として勤務しておられ、患者を診療中に原爆に遭われています。「巨大な衝撃」が病院はもちろん秋月さんの身体にまで加えられ、病院は大きく破壊されて秋月さんも負傷します。生き残った人々が苦悶する様子は秋月さんの著書「死の同心円」に生々しく記述されています。

被爆者医療での貢献と長年の平和活動が評価され、平成7年に第1回永井隆平和記念・長崎賞を受賞されました。

映画の総製作費（1億5千万円）の半分の7,500万円を長崎で募金しようと、「アンゼラスの鐘」製作を支援するナガサキの会は市民に協力を呼びかけています。一枚1,000円で映画を鑑賞できる製作協力券をぜひたくさんの方たちに購入していただきたいと思います。

購入方法については、長崎事務局の長崎県映画センター（TEL 095-824-2974）へお問い合わせ下さい。

